



中国

文化財返還を 大きなうねりに！ 7.27 集会

日時●**2024年7月27日（土）**
18時開場／18時30分開会

場所●**文京区民センター2A**

（都営地下鉄春日駅1分・地下鉄メトロ後楽園駅3分・JR水道橋駅12分）

資料代●800円

講演●**吉田 邦彦**（中国・広東外語外貿大学法学院・雲山特別教授）

「中国文化財返還の現状と課題——特に東京大学東洋文化研究所玄関前の石獅子について」

●**五十嵐 彰**（「中国文化財返還運動を進める会」共同代表）

「東京大学総合研究博物館が所蔵する東亜考古学会発掘資料」



私たちの会は、2022年4月の正式発足以来、主として、現在靖国神社と山縣有朋記念館に置かれている清朝の石獅子（日清戦争の戦利品として遼寧省海城より略奪）、ならびに現在皇居吹上御苑内に置かれている唐代の「鴻臚井碑」（日露戦争の戦利品として遼寧省旅順より略奪）という中国文化財の一刻も早い現地への返還を求めて、靖国神社や宮内庁への申し入れ等の行動に取り組んできました。

しかし、言うまでもなく、侵略戦争や植民地支配の過程で、現地から違法に持ち出された中国文化財は、膨大な量にのぼります。戦後、当時の中華民国の政府機関がまとめた「掠奪文化財」のリストによれば、書籍や標本等を含め、総計で360万7000件以上にもなります。日本政府は、戦後処理の一環として、それらの文物の所在や現状、略奪にいたる経緯などを明らかにし、速やかに元の場所に返還する責任があったはずなのに、それらはきわめて不十分な形でしかなされていません。

そうしたもののひとつとして、かつて東京帝国大学所属の考古学者らが、中国東北地方から盗掘した渤海国の文物があります。これらは経緯の説明もなく、東京大学総合研究博物館に展示されています。また、同館の裏手にある東洋文化研究所の建物の門前には、北京から持ってきたとされる一対の石獅子が、シンボルとして置かれています。私たちはこの石獅子も、不正に収奪してきたものではないかという疑いを持っていますが、東大側はこれについても、彼らの保有している資料など一切見せようとしません。これらについても、私たちの会として取り組むべく、準備を始めています。

今回の集会では、略奪文化財返還についての国際的な動きにも詳しい民法研究者であり、東洋文化研究所の石獅子問題を追及してきた吉田邦彦さん、ならびに本会共同代表で、東京大学総合研究博物館が所蔵している略奪文化財に関して調査研究を進めてきた五十嵐彰を講師として集会をもちます。ぜひ、ご参加下さい。

*本集会はオンラインでも参加できます。ご希望の方は下記アドレスまでご連絡下さい。

主催●**中国文化財返還運動を進める会**

〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-5 一瀬法律事務所

Tel. 03-3501-5558 / Mail: info@ichinoselaw.com